

学校教育目標	未来を拓き、心豊かにたくましく生きる力を育む
目指す学校像	百年余りの本校の歴史を土台に、輝く北っ子を育むために次の百年をめざす学校 ~伝統と信頼、そして挑戦~

重点目標	1 心をこめ、これからの北っ子の育成を見据えた教育活動・学校経営を展開する。 2 自他の命を大切、尊重し心豊かな児童の育成を図る。 3 地域とともにある学校づくりを推進する。 4 安全・安心で美しく整えられた教育環境づくりを進める。 5 教職員の資質向上を図り、持続可能な教育活動を実践する組織づくりに取り組む。
------	--

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	○学力的には、県、市の平均と比較し上回る傾向が見られ良好な結果となっている。しかし、学習意欲、関心から見てみると、低い傾向が見られ、主体的に学ぶ意識や、自己の学びについて見つめることが不十分なことが課題である。 ○全体的には学力が高い傾向があるものの個人的に見ると、格差が激しく、特に算数において顕著である。昨年度より習熟度別少人数指導導入により改善傾向は見られる。	「学びの自律化」を図る指導の充実	○主体性(学ぶ目的を理解し、目標をもって学ぶ)、規律性(学びに向かう態度を自ら律し、意識する)、計画性(学ぶ見通しを立てる)を育む授業改善を実施する。 ○教職員自らが主体的に研修に取り組むことの実現に向けて実践する。	○教員や児童を対象とした学びに関するアンケートで平均85%以上の肯定的評価を得る。					
		児童一人ひとりのニーズや実態に応じた指導や児童理解に基づく指導の充実	○算数での3年生以上の習熟度別少人数指導、低学年のチームティーチングを原則全単元で実施する。 ○道徳では全学年でローテーション道徳を実施する。また、中学年以上では学年教員による教科担任制の実施、全学年での生活科、総合的な学習の時間での学年合同授業を実施する。それらを中心に学年教員が学年児童を指導することを通して理解する体制を築く。	○市学力調査の算数において、2ポイント以上の伸びが見られる。 ○教職員対象の学校評価アンケートにおいて「児童理解に基づく指導」項目で90%以上の肯定的評価を得る。					
2	○規律を守ろうと意識できる児童が比較的に多い。 ○相手に対する思いやりの気持ちが足りず、ささいなことからいじめ等トラブルに発展するケースが多く見られる。 ○発達上の課題が見られる児童の増加や、保護者が自身の子どもの課題を理解できずに直接的な支援に結びつけないケースが増加している。	規律や人権意識の基盤となる「三つの基本」等の指導に徹底、意識の浸透	○三つの基本の中核となる「日本一の心のこもったあいさつができる学校」を児童会、PTA、学校運営協議会を中心に取り組みを進める。 ○ぼかぼかアンケートやデジタル相談箱等新しい試みを取り入れながら、児童の心の変化に気づくようにする。	○学校評価保護者アンケートでは生徒指導に関する項目、児童アンケートではあいさつ、規律に関する項目で肯定的評価を90%以上とする。					
		一人一人の児童のWell-beingを大切にす支援の充実	○「おはようメーター」等 SSDB を活用し、児童理解、問題の早期発見につなげる。 ○校内教育支援センターSolaを一むを中核に不登校児童の支援充実を図る。 ○いじめ問題等生徒指導上の課題に対し、組織的対応を強化する。	○学校評価保護者アンケートの教育相談に関する項目で肯定的評価97%を維持する。					
3	○三世代で暮らしている児童が多く見られ、安定した家庭も多く落ちついて過ごしている児童が多い。 ○保護者では、学校に児童を送り届けたりする家庭も多く、懇談会の出席率も高いことから学校への関心や理解が全体的に高いことが伺われる。	地域に根ざした教育の推進	○学校運営協議会等地域と関わる本校主催会議を中心に、学校、保護者、地域が協働し、子どもの成長を支え、地域作りに貢献をしていく。 ○子どもの声を地域行事等に生かせる場を多く設定し、子どもたちが主体的に地域作りに関われるようにする。 ○学校行事「参道清掃」を地域や保護者と連携を深め、地域行事へと発展していくようにする。	○地域と関わる本校主催会議を定期的実施し、その成果を地域に還元している。					
4	○リフレッシュ工事が令和6年に完了し教育環境の改善は図られたが、不良箇所等は見られ、日常的な点検、確認は確実に実施していく必要がある。 ○物価高等社会情勢の変化を受け、限られた配当予算を効果的に運用していく必要がある。	施設、設備、予算の日常的な点検、確認と効果的な運営	○施設、設備の日常的な点検を確実に実施し、修繕箇所の早期対応を実現する。 ○学校発信文書を情報価値の観点から吟味しながらもペーパーレス化を推進する。	○施設、設備点検を毎月定期的実施している。 ○紙使用量(価格ベース)で前年度比20%減少を図っている。					
5	○教職員の資質向上を図るための研修において、教職員の主体性、計画性が不十分な点が見られる。 ○働き方改革に対する理解は深まってきているが、意識的に改革しようとする機運には課題が見られる。	教職員が主体的な資質の向上	○学校課題を中心に課題意識をもち一人ひとりの専門性を高める研修を実施する。	○学校評価教職員アンケート及びその他のアンケートで研修に関する項目で肯定的評価を現状維持または90%以上とする。					
		働き方改革の推進	○終業時刻18時30分、学校開庁時刻20時を明確に打ち出し、時間外在校時間月30時間以内を意識した働き方を模索する。 ○業務の効率化、内容の改善を学校全体で検討し、実現を図る。	○時間外在校時間における30時間以内の教職員を月平均70%以上とする。 ○業務改善委員会を立ち上げ、開催回数を昨年度以上(昨年度開催回数4回)とする。					

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組